

アジア視察報告＜７＞

視 察 項 目	教育・医療・スポーツの充実を通じた経済支援について
視 察 日 時	2024年10月23日（水） 午後5時10分～6時00分
視 察 先 名	フロンターレサッカースクール
説 明 者	Becamex 東急 西村氏、フロンターレ担当職員
担 当	青木 功雄

【はじめに】

この施設は、Becamex が川崎フロンターレのために作った施設である。ベトナムのサッカー人気と日本の川崎フロンターレが世界戦略・文化発信戦略も兼ねて、ベトナムにおいてサッカーを通じた教育やエンターテインメントの魅力を伝えつつ、サッカーの幅広い可能性を模索する取組を行っていた。

【取組の概要】

Becamex がベトナムで人気のあるサッカーを誘致して、地域の価値を上げることとともに、サッカー教育を通して、地域でのエンターテインメントの普及や、ベトナム人のみならず、移住する多くの外国人に向けても住居の快適さをPRする戦略をとっていた。

誘致されたチームは、川崎フロンターレであり、フロンターレは日本のみならず、世界的にもユースチームの運営力がかなり高いチームであり、以前にもタイでフロンターレとして進出して実績を残しているため、東急が主体となって施設を作り、Becamex のグラウンド運営として入居していた。

【主な調査内容】

(1) サッカースクールとしての充実強化

川崎フロンターレのベトナムスクールは、2021年12月に開校し、今年で3年目を迎えている。

このスクールには現在、約200名の生徒が在籍している。生徒の多くはベトナム人だが、台湾人、日本人、欧米系の生徒も通っている。スクールの指導は日本語ではなく、英語で行われており、言語面でのサポートも行われている。スタッフの中には、英語を話せるベトナム人もおり、英語からベトナム語への通訳が可能である。これにより、異なる国籍の生徒たちが円滑に学べる環境が整っている。

スクールでは、サッカー技術の向上だけでなく、さまざまなイベントや交流活動も行っている。主な活動内容として、以下のような取組がある。

《大会の開催》

定期的にサッカー大会を開催し、生徒たちに実践の場を提供している。これにより、生徒たちは競技を通じて技術や精神面を鍛えることができる。

《日本遠征》

日本への遠征を実施しており、スクール生たちが日本でのサッカーを経験する機会を提供している。これにより、国際的な視野を広げるとともに、サッカーのレベルアップを目指している。

《1周年記念サッカー教室》

スクール会場でもある「SORA gardens Links FOOTBALL FIELD」の1周年記念として、スペシャルゲストに元サッカー日本代表の大久保嘉人さんを招いてサッカー教室を開催した。このようなイベントを通じて、プロ選手から直接指導を受ける機会を生徒に提供し、モチベーションの向上を図っている。

《トップチームとの交流》

2022年には、川崎フロンターレのトップチームがビンズン省を訪れ、ビンズンFCと試合を行った。このような交流活動は、スクールの生徒にとって非常に貴重な経験となり、サッカーの技術面だけでなく、文化的な交流にもつながっている。

(2) 地域貢献活動

スクールは地域とのつながりを非常に大切にしており、地元企業や保護者とのコミュニケーションを積極的に行っている。以下はその具体例である。

《シーズンパーティー》

毎年、スポンサーや保護者、スクール関係者への感謝の意を示すために「シーズンパーティー」を開催している。このイベントは、地域社会との結び付きを強化するために重要な役割を果たしている。

《地域との連携》

スクールは地域の飲食店等と提携し、成績優秀な生徒にバウチャーを提供するなどの取組を行っている。これにより、地域企業と連携した活動が進んでおり、地域貢献の一環として活動している。

《レンタルコートとしての利用》

スクールの施設は、ビンズン省の女性チームにも利用されるなど、地域のサッカー活動をサポートしている。施設が地域のサッカー発展に貢献している。

(3) 日本文化と社会性の教育

スクールでは、サッカーの技術指導だけでなく、日本の社会性や文化を大切にしている。特に、挨拶や片付けといった基本的な社会性を教えることに力を入れている。生徒たちは、サッカーを通じて、礼儀や協調性、コミュニケーション能力を学び、日本の良さを実感することができる。

(4) スクールが目指す目標

川崎フロンターレのベトナムスクールは、将来的にベトナム代表選手を輩出することを目指している。最終的な目標は、フロンターレスクール出身の選手がフロンターレのトップチームに進み、さらにベトナム代表として活躍することである。この目標を達成するた

めに、日々の活動を進めている。



サッカー場を見学する視察団員



説明を受ける視察団員

＜状況と問題意識の共有＞

川崎フロンターレが蓄積したユースチームの教育や運営のノウハウを海外都市で実践するとともに、東急と一緒にまちづくりすることで川崎市のファンを増やすこと、そしてサッカーや文化だけでなく、どのような形で川崎市に還元し、経済交流ができるのかという視点について現状分析した。

今回の視察では、川崎市サッカー協会の副会長である雨笠議員が視察団の団長となった。また本市議会議長の青木が、スポーツ議連の事務局長をしていることから、川崎市のホームタウンスポーツの国際交流の可能性について、視察に参加した議員団とともに問題意識を共有し、今後の方向性を確認することでも大変意義のある取組であった。

年に1度のベトナムのチームと川崎フロンターレとの取組の状況や、ベトナムにおける川崎市についての認識を確認したところ、かなり好感度が高いということで、取組が活発であることを確認した。

また、ベトナムの子供たちにサッカーを教えることは非常に人気であり、特に海外のチームに入れることはかなりのステータスになるとのことだった。

それに付随して東急が開発したマンションの売れ行きも好調で、日本の企業であるイオンのスーパーマーケットも、そこに店を出した。他にもベトナムの有名店であるレストランが店を出したり、ベトナムで有名になったフォーピースのピザ屋が、逆輸入で日本に出店をするなど、相互の交流関係とビジネスチャンスの状況を確認できた。

【質疑・応答】

Q 1 : この施設はいくらぐらいかかったのか？

A 1 : この施設は約10億円の費用がかかっている。施設自体はBecamexが作り、川崎フロンターレは運営と人員の派遣を行っている。

Q 2 : どのような子どもたちが多いのか？

A 2 : 国籍はベトナム人に限らず、台湾、韓国、日本人等の他国籍の子どもたちが集まっている。

Q 3 : 川崎市との交流にどのような成果があるのか？

A 3 : 1年に1度、川崎市の子どもたちがベトナムを訪れたり、ベトナムの子どもたちが川崎市を訪れたりし、サッカーを通

して国際交流を深めている。このプロジェクトは大変評判が良く、時には川崎フロンターレのトップチームがベトナムの子どもたちと交流することもある。ワールドカップ出場選手との触れ合いは刺激的で、ベトナムからもワールドカップを目指す子どもたちが生まれるなど、意義ある成果をあげている。

Q 4 : ベトナムの子どもたちにサッカーは人気なのか？

A 4 : ベトナムの子どもたちはサッカーが好きである。一人っ子政策なので、サッカーを通じて教育もできて、親御さんたちからも喜ばれている。

Q 5 : 女子サッカーは盛んなのか？

A 5 : 女子サッカーはまだまだ盛んではないが、始めた家庭が多い。

Q 6 : 川崎フロンターレは人気なのか？

A 6 : 日本のチームはどこも人気があり、川崎フロンターレのユニホームも大変喜ばれている。

Q 7 : ベトナムの子にとって日本への遠征はどんな感じなのか？

A 7 : いずれはサッカー選手で活躍したい子どもたちもいるので、川崎市に行くのは夢である。



サッカー場に降り立つ視察団

【総括】

今回の視察を通じて、ベトナムにおけるサッカーを通じた教育と国際交流の可能性についての理解が深まり、今後川崎フロンターレの活躍がさらに広がることが期待できた。また、川崎フロンターレが活躍する流れで、他にも川崎市で盛んに行われているダンスの活動や医療の取組が輸出できており、隣接するイオンのスーパーマーケットやモールに、そうした川崎市のゆかりの商品やサービスが進出できる大きなポテンシャルがあることが分かった。

他にも理系の子供たちが多い地域なので、その中学校や高校と本市の高校とがオンラインで結びついて交流するなどの可能性も視野に入れるべきと考える。川崎市の都市発展の技術を輸出することで、ただの1商品、1サービス同士の交流ではなく、広い面で交流が結ばれることにより、新たな価値の構築につながることを理解することができた。

川崎市は、行政のみならず商工会議所、ホームタウンスポーツ、市民、政治とあらゆる場面で今 1 番活気がある。ベトナムのビンズンとやりとりする事は非常に意義が高いと考える。

今後もこの取組が継続できるように、本市としても今後どのような形でサポートしていくか、また議会の場から発信していく必要がある。